事例No.	2241
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	北海道室蘭市

事例区分	DX

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・ICT

事例種類	DX

事例内容・タイトル

オープンデータの推進

出典

地方自治研究機構：自治体D X のマネジメント手法（令和３年度）

<調査研究事業：自治体 DX のマネジメント手法（令和３年度）>

〇自治体 DX

・マネジメント手法

取組団体：北海道室蘭市

取組内容：オープンデータの推進

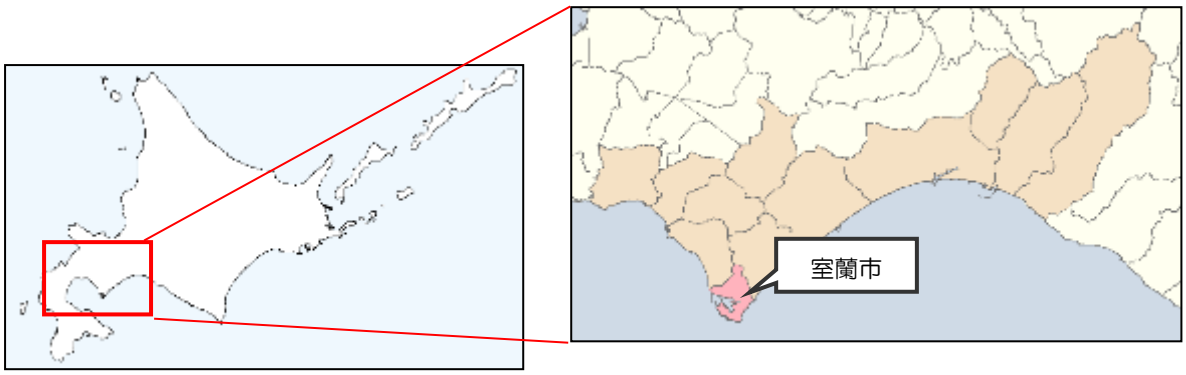
１．室蘭市の概要

人口：79,113 人（令和４年５月末時点）

職員数（一般行政職）：343 人（令和４年４月１日時点）

総面積：80.88 ㎢

図表 1 室蘭市の位置図



２．取組の背景・目的及び取組の内容

（１） オープンデータ推進

① 推進のきっかけ

室蘭市では 2012 年に庁内で GIS（地理情報システム）の導入を検討した際に、市民にも公開した方がよいのではないかという意見が職員から出た。コストや運用の手間を考慮し、市民向け GIS 整備ではなくデータの公開を検討していたところ、国のオープンデータ推進の方針と一致したため、オープンデータとして公開した。行政の保有するデータをオープンデータとして提供することで行政の透明性及び信頼性の向上、市民参加・官民協働による地域課題の解決につながることを見込んでいる。

② 庁内推進体制

当時も、現在も全庁的に積極的な協力体制があるわけではなく、オープンデータの概念・効果を理解している職員がまだまだ少ない。各課からデータ公開の提案があることが理想であるが、現状は ICT 推進課（電算所管課）がデータ所管課に対して、民間からニーズのあるデータの公開を働き掛けている。

図表 2 室蘭市オープンデータライブラリ



オープンデータダウンロード

オープンデータのダウンロードは、下記の2通りの方法で可能です。

- 下記一覧からダウンロード
- ArcGIS Open Dataの室蘭市公式サイトからダウンロード
  ArcGIS Open Dataでは、Shape、CSV、KML、GeoJSON、ジオサービスが利用可能です。
  ※ Internet Explorerには対応しておりません。
  ArcGIS Open Dataの室蘭市公式サイトはこちら(外部サイトへリンク)

ジャンル	データ名	説明	フォーマット データサイズ	ライセンス	公開日
地図	都市計画現況図平成12年版	都市計画現況図を1レイヤに統合してあります ページ下部の注意事項をご覧下さい	Shape (ZIP : 123MB)	CC BY	2013/12/11
地図	都市計画現況図平成12年版レイヤ別	都市計画現況図を分類ごとにレイヤを分けたものです ページ下部の注意事項をご覧下さい	Shape (ZIP : 111MB) 説明 (CSV : 1KB)	CC BY	2013/12/11

出所 室蘭市ホームページ

（2） オープンガバメント推進協議会への参加

① 組織概要

産・官・学の連携の下、マイナンバー制度やビッグデータ・オープンデータの利活用推進に取り組んでいる。武雄市、千葉市、奈良市、福岡市が発足させ、室蘭市は平成 26 年度から参加している。民間企業との連携による実証実験では、他の自治体に波及できるものを協議会の中で横展開できるよう働き掛けをしている。

一般会員	協議会の目的に賛同する地方公共団体。以下の 10 団体 千葉市、奈良市、福岡市、室蘭市、郡山市、浜松市、桑名市、つくば市、熊本市、千葉県
特別会員	協議会の目的に賛同する者で、総会において協議会の目的のために特に必要と認めた者。以下の7団体 日本アイ・ビー・エム株式会社、日本マイクロソフト株式会社、一般社団法人オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン、一般社団法人オープンガバメント・コンソーシアム、ヤフー株式会社、中央大学国際情報学部 教授 須藤 修、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

② 参加のきっかけ

人口約８万人の室蘭市単独ではオープンデータを有効活用した取組には限界がある。オープンガバメント推進協議会への参加によって他団体と一緒に事業を行うことでスケールメリットを生かし、民間企業の実証実験で室蘭市のオープンデータを活用してもらうことが目的である。

③　効果

オープンガバメント推進協議会の働き掛けによって、民間事業者との連携による実証実験に複数取り組んだ。子育て支援（公共施設情報）、カレンダー（地域イベント、生活情報配信）、家計簿（給付金情報）などのアプリケーションにオープンデータの提供をした。室蘭市は費用を掛けずにオープンデータの活用ができた。

また、デジタルを活用する自治体のコミュニティに参加することは情報交換などのメリットがあった。

（3）　アーバンデータチャレンジへの参加

①　イベント概要

オープンデータや GIS を活用して地域課題や魅力創出を目指す取組で、アイデアソンやハッカソンなどのイベントを伴う民間参加型のコンテスト。南北海道ブロックでの開催を室蘭市が主催していた。アーバンデータチャレンジへの参加をきっかけに Code for Muroran や民間エンジニア、大学と公民連携に取り組むなどコストを掛けずに積極的にオープンデータの活用を進めている。

②　Code for Muroran の設立

室蘭市が企画したハッカソンに集まったエンジニアたちが継続的な活動を希望し、設立した。オープンデータを活用し、ゴミなしアプリや保育園マップの室蘭市版の作成、バス時刻表データの作成とバス停情報のマッピング、室蘭市が公開する LINE チャットボットの構築支援の実績がある。

③　室蘭工業大学との連携

アーバンデータチャレンジの提案として、情報関係の教授と協力し、授業の中で地域課題を解決するためのアプリケーションを考える講義を行った。授業には室蘭市職員も参加した。現在はチャレンジオープンガバナンス（オープンデータから地域の課題を分析し、課題を解決するコンテスト）にも参加し、自治体連携賞を受賞するなど評価されている。

3．成果・課題

・オープンデータ・DX 推進の課題

国を挙げての取組が進められるオープンデータや DX であるが、人材の確保が課題である。これから起こる変化に対して対応できるよう職員のマインドを変えていく必要がある。そのためにもオープンガバメント推進協議会や公民連携をとおした外部との交流は良い経験となる。また、小さくてもよいので、成功体験を重ねる。オープンデータや DX の推進によって、公務員の仕事

が楽になる、地域課題が解決される、市民の利便性が向上するなど効果やフィードバックを知ることも重要である。

ICT 推進課（情報政策担当）としては、オープンデータとして活用できそうなものがあれば各課をまわって普及啓発するなど「草の根活動」をしていくつもりである。

【参考】

室蘭市ホームページ（オープンデータ推進の各種取組）

http://www.city.muroran.lg.jp/main/gyousei/joho.html